株主のみなさまへ

第148期 第2四半期連結累計期間
株主通信

平成25年4月1日～平成25年9月30日

マツダ株式会社

株主のみなさまへ

株主の皆様には、平素より格別のご支援を賜り、厚く御礼を申しあげます。

ここに、マツダグループの第148期 第2四半期連結累計期間（2013年4月1日から2013年9月30日まで）の業績ならびに通期業績見通しについてご報告申しあげます。

2013年11月

代表取締役社長
兼CEO（最高経営責任者）
小飼雅道

業績の概要：増収かつ全ての利益レベルで増益を達成

当第2四半期連結累計期間のグローバル販売台数は一部新興国で販売環境に厳しさが見られたものの、「SKYACTIV技術」を搭載した「マツダ CX-5」、新型「マツダ アテンザ（海外名：Mazda6）」の販売が好調に推移したことにより、前年同期比3.0%増の63万1千台となりました。連結売上高は1兆2,543億円（前年同期比22.6%増）、営業利益は740億円（同625億円増）、経常利益は363億円（同359億円増）、当期純利益は250億円（同192億円増）となりました。SKYACTIV搭載車両のグローバルでの販売増加、継続的なコスト改善の推進に加え、主要通貨に対する円高修正もあり、増収かつ全ての利益レベルで増益を達成しました。

通期見通しの修正

こうした最近の業績動向などを踏まえ、期初の通期業績予想を営業利益1,600億円、経常利益1,230億円、当期純利益1,000億円へ修正しました。グローバル販売台数133万5千台の達成に向けて、販売モメンタムを維持している「CX-5」、新型「アテンザ」に加え、SKYACTIV搭載車両第3弾の新型「マツダ アクセラ（海外名：Mazda3）」を、当第2四半期末に導入した北米に続き、欧州、日本、オーストラリアなど主要市場に順次導入していきます。さらに、中国、マレーシアで現地生産を開始した「CX-5」による販売拡大や、ブランドイメージ向上のために広告宣伝活動を強化し、中長期見通しの達成に向けた台数成長を目指します。

なお配当につきましては、当期は、マツダ単体の繰越利益剰余金が欠損の状態であることから、誠に遺憾ではありますが、配当を見送らせていただきます。株主の皆様には、誠に申し訳なく存じますが、何卒ご理解を賜りますようお願い申しあげます。

構造改革プランは順調に進捗

「構造改革プラン」の施策も確実に進めています。「SKYACTIVによるビジネス革新」では、SKYACTIV搭載車両の導入に伴い、ブランド価値向上や正価販売の推進など販売力強化策を実施しています。また、「新興国事業強化とグローバル生産体制の再構築」では、メキシコ新工場は当第4四半期の稼働開始に向け準備は順調に進捗しています。ASEAN地域では、カンボジアやミャンマーにも市場参入を決定し、加盟10カ国でマツダ車を販売します。また、マレーシアで現地生産している「CX-5」をタイ向けに輸出し、販売拡大を目指します。

今後も通期見通しの達成および「構造改革プラン」の推進に引き続き注力してまいります。

株主の皆様には、今後とも変わらぬご支援・ご指導を賜りますようお願い申しあげます。

第2四半期累計実績および通期業績見通し

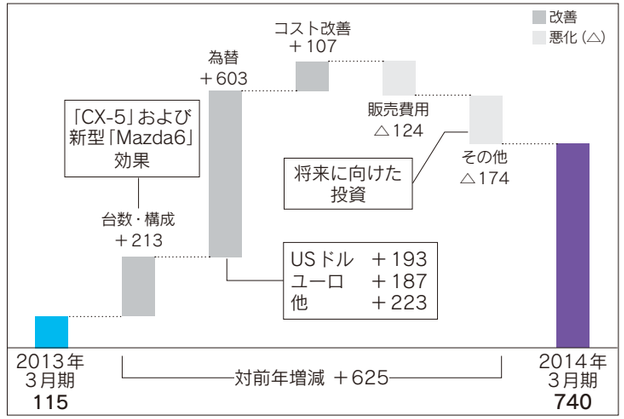
（単位：億円）

	第2四半期累計実績	対前年同期増減	通期業績見通し	対前年増減
売上高	12,543	2,308	26,500	4,447
営業利益	740	625	1,600	1,061
経常利益	363	359	1,230	899
当期純利益	250	192	1,000	657

＊ 記載金額は億円未満の端数を四捨五入しています。

第2四半期累計 営業利益変動

（単位：億円）



＊ 記載金額は億円未満の端数を四捨五入しています。

連結貸借対照表（要旨）

（単位：億円）

	'13/9末	'13/3末
資産の部		
流動資産	9,886	10,275
固定資産	9,905	9,511
有形固定資産	8,069	7,844
無形固定資産	208	205
投資その他の資産	1,628	1,462
資産合計	19,791	19,786

	'13/9末	'13/3末
負債の部		
流動負債	7,320	7,589
固定負債	6,837	7,064
負債合計	14,157	14,653
純資産の部		
株主資本	4,781	4,531
その他の包括利益累計額	680	432
新株予約権	—	0
少数株主持分	173	169
純資産合計	5,634	5,132
負債純資産合計	19,791	19,786

＊ 記載金額は億円未満の端数を四捨五入しています。

連結キャッシュ・フロー計算書（要旨）

（単位：億円）

	'13/4 – '13/9	'12/4 – '12/9
営業活動によるキャッシュ・フロー	77	△117
投資活動によるキャッシュ・フロー	△492	△79
財務活動によるキャッシュ・フロー	△136	△299
現金及び現金同等物に係る換算差額	45	△84
現金及び現金同等物の増減額（△減少額）	△506	△579
現金及び現金同等物の期首残高	4,449	4,773
現金及び現金同等物の四半期末残高	3,942	4,204

＊ 記載金額は億円未満の端数を四捨五入しています。

1 SKYACTIV搭載車両の販売好調

マツダの「SKYACTIV技術」とデザインテーマ「魂動（こどう）–Soul of Motion」を全面採用した「マツダ CX-5」と新型「マツダ アテンザ」は、欧州やASEANなど新興市場への本格導入や、「CX-5」で特別限定車や2.5Lモデルを追加したことなどにより好調な販売を継続しています。今秋には、SKYACTIV搭載車両第3弾の新型「マツダ アクセラ」を発売しました。「アクセラ」は、マツダのグローバル年間販売台数の3割を超える基幹車種で、世界120カ国以上で年間50万台、国内では月間3,000台の販売を計画しています。全販売台数に占めるこれらSKYACTIV搭載車両の比率は前期の31%から当期は50%、2016年3月期には80%にまで拡大する予定です。

「CX-5」25S Lパッケージ

■ SKYACTIV搭載車両販売拡大に対応し、エンジン、トランスミッションの生産能力を増強

本社のエンジン工場では「SKYACTIV-G」と「SKYACTIV-D」の年間生産能力を、2014年末までに現在の80万基から100万基に、防府工場では、「SKYACTIV技術」のトランスミッションの年間生産能力を、2014年7月に75万基から114万基にそれぞれ増強します。タイでは、年間生産能力40万基規模の新トランスミッション工場を2016年3月期上半期に稼働する予定です。

2 新興国事業およびグローバル生産体制の強化

■ メキシコにエンジン機械加工工場を新設

マツダは、住友商事株式会社との合弁事業であるメキシコの新工場に、エンジン機械加工工場を新設します。「SKYACTIV技術」のエンジンを生産する予定で、2014年10月の稼働を目指しています。年間生産能力は23万基規模を計画しており、工場稼働後は主要部品加工から組立までエンジンを一貫生産できるようになります。また部品の現地調達を拡大し現地化を進め為替変動への対応力向上を図ります。

メキシコ新工場　完成予想図

■ ASEANビジネスを強化

マレーシアの生産販売統括会社「マツダ・マレーシア」では現地組立体制の強化策として、生産委託先であるイノコム社所有のマツダ車専用車体工場の2013年中の取得、および2014年春の稼働を目指し車両組立工場の建設を決定しました。販売面では、2013年8月にカンボジアでマツダ車のディーラー1号店をオープンしたことに加え、2014年前半にはミャンマーにも再参入する計画です。これにより、ASEANに加盟する全10カ国でマツダ車を販売することになります。

3 車と路面電車の接触事故を防ぐ、公道実証実験を開始

マツダは先進安全運転支援システムを搭載した「マツダ アテンザ ASV-5*」を開発し、産学官共同で研究・実用化が進められるITS（高度道路交通システム）を活用した安全運転支援システムの公道実証実験を、2013年9月から開始しました。広島市で市民の足として定着している路面電車と自律型車載センサーを搭載した自動車との間で通信を行うことで、接触事故を未然に防ぎ、安全で円滑な運転を支援するシステムの効果検証などを行っています。

* ASVとは、Advanced Safety Vehicle（先進安全自動車）の略。

「マツダ アテンザ ASV-5」

CLOSEUP
クローズアップ

ひと目で心に火がつき、時とともに愛着が深まる、かつてないスポーツコンパクト

NEW MAZDA アクセラ

エコカー減税 *1　クリーンディーゼル補助金 *1

スタイル	4ドアセダン／5ドアハッチバック
エンジン	ガソリン：1.5L／2.0L、ディーゼル：2.2L、ハイブリッド
燃費（JC08モード）*2	ガソリン：17.8～19.6、ディーゼル：19.6（AT車）、ハイブリッド：30.8（km/L）
価格帯*3	171～298（万円）

新型「マツダ アクセラ」を発売

新型「マツダ アクセラ」では、デザインテーマ「魂動」の躍動表現により、ひと目で走りへの期待感を高めるエクステリアデザインと、洗練されたインテリア空間をつくり上げました。また、乗るほどになじむような人馬一体の意のままの走りを生み出すために、「SKYACTIV技術」に加えて、ドライバーの危険認知・判断をサポートする先進安全技術「i-ACTIVSENSE」を広く搭載し、マツダが追求する走る歓びを高い次元で実現しています。さらに、独自の新カーコネクティビティシステム「MAZDA CONNECT（マツダ コネクト）*」を新たに導入します。日本メーカーで初めて、1つの車種に「ガソリンエンジン」「ディーゼルエンジン」「ハイブリッドシステム」の3つのパワートレインをラインアップして、多様化するお客様のニーズにお応えします。

* MAZDA CONNECTは日本、米国、カナダ、メキシコでの名称。その他の市場での名称は「MZD CONNECT」となります。

新カーコネクティビティシステム「MAZDA CONNECT」

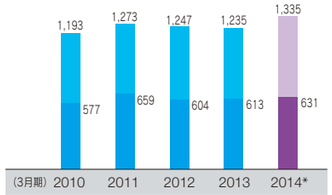
「MAZDA CONNECT」は、スマートフォンなどの新しい通信技術の利便性や楽しさを、自動車に適した形で安全に提供する新世代カーコネクティビティシステムです。「Heads-Up Cockpit（ヘッズアップ コクピット）」コンセプトに基づく新世代HMI（Human Machine Interface）を採用し、扱う情報量が増えても、前を向いて安全に運転に集中できる運転環境を提供します。スマートフォンと連携したハンズフリー通話、ショートメッセージなどのコミュニケーション機能や、インターネットラジオ、ポッドキャスト、オーディオブック、SNS（Facebook、Twitter）などを利用することができます。

*1. 減税額および対象グレードについては販売店にお問い合わせください。
*2. 国土交通省審査値。燃料消費率は定められた試験条件での値です。お客様の使用環境（気象、渋滞など）や運転方法（急発進、エアコン使用時など）に応じて燃料消費率は異なります。
*3. 記載の価格はメーカー希望小売価格（消費税込。1万円未満は切り捨て）です。別途リサイクル料金がかかります。

連結業績ハイライト

グローバル販売台数

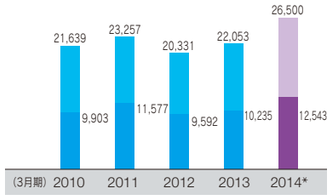
（千台） ■通期 ■第2四半期累計 ■通期見通し



グローバル販売台数は、一部新興国で販売環境に厳しさが見られたものの、「CX-5」、新型「アテンザ」が販売を牽引し、前年同期比3.0%増の63万1千台となりました。通期では、同8.0%増の133万5千台となる見通しです。

売上高

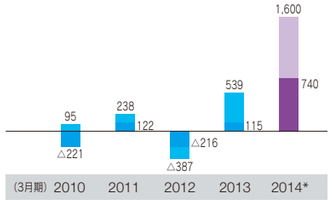
（億円） ■通期 ■第2四半期累計 ■通期見通し



売上高は、SKYACTIV搭載車両のグローバルでの販売拡大などにより、前年同期比2,308億円（22.6%）増の1兆2,543億円となりました。通期では、同4,447億円（20.2%）増の2兆6,500億円となる見通しです。

営業利益（△損失）

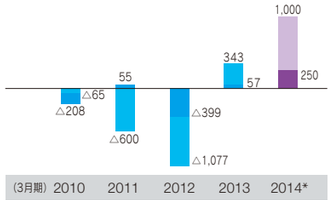
（億円） ■通期 ■第2四半期累計 ■通期見通し



営業利益は、前年同期比625億円増の740億円となりました。円高修正による増益効果と、SKYACTIV搭載車両による台数・構成の改善およびコスト改善が寄与しました。通期では、1,600億円となる見通しです。

当期純利益（△損失）

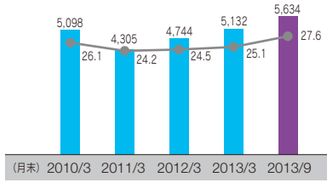
（億円） ■通期 ■第2四半期累計 ■通期見通し



当期純利益は、前年同期比192億円増の250億円となりました。通期では、1,000億円となる見通しです。

純資産／自己資本比率

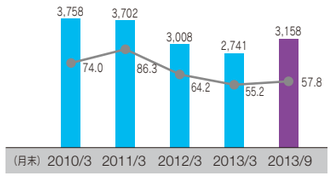
（億円／％） ■純資産 ●自己資本比率



純資産は前期末比502億円増の5,634億円となり、自己資本比率は前期末比2.5ポイント増の27.6%となりました。

純有利子負債／純有利子負債自己資本比率

（億円／％） ■純有利子負債 ●純有利子負債自己資本比率



有利子負債から現金及び現金同等物の四半期末残高を除いた純有利子負債は3,158億円となり、純有利子負債自己資本比率は57.8%となりました。

* 2014年3月期通期は見通しです。業績見通しには、リスクや不確定要素が含まれており、実際の業績とは大きく異なる結果となる場合があります。

市場別ハイライト

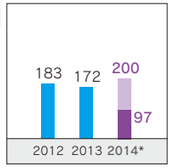
販売台数（千台）

■通期 ■第2四半期累計 ■通期見通し

欧州市場

97 千台

（前年同期比14%増）

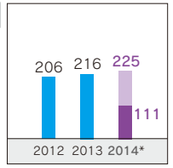


- 販売台数は前年同期比14%増の9万7千台
- 「CX-5」の供給改善、新型「Mazda6」の本格導入が貢献
- 特に主要国であるドイツ、英国での販売が好調
- 通期は同17%増の20万台の見通し

日本市場

111 千台

（前年同期比1%増）

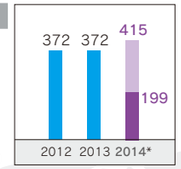


- 販売台数は前年同期比1%増の11万1千台
- 「CX-5」や新型「アテンザ」などSKYACTIV搭載車が販売を牽引
- 通期は同4%増の22万5千台の見通し

北米市場

199 千台

（前年同期比9%増）

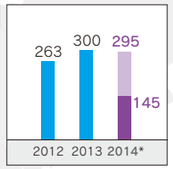


- 販売台数は前年同期比9%増の19万9千台
- 米国では同12%増の14万2千台。「CX-5」は同69%増。新型「Mazda6」の販売も順調
- 通期は同11%増の41万5千台の見通し

その他市場

145 千台

（前年同期並み）

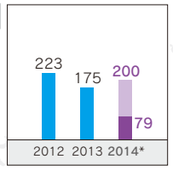


- 販売台数はその他市場全体でほぼ前年同期並みの14万5千台
- オーストラリアは前年同期並みの5万2千台と好調を維持
- ASEANはタイを除く市場で前年同期比増を達成
- 通期は同2%減の29万5千台の見通し

中国市場

79 千台

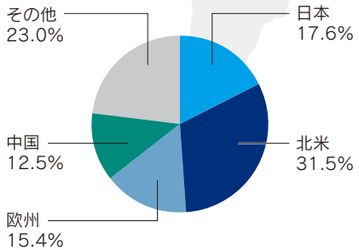
（前年同期比12%減）



- 販売台数は前年同期比12%減の7万9千台
- 「CX-5」の現地生産車の販売を開始し、9月末までに1万台を受注
- 通期は同14%増の20万台の見通し

グローバル販売台数

63万1千台（前年同期比3%増）

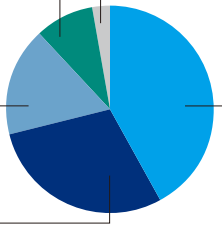


* 2014年3月期通期は見通しです。業績見通しには、リスクや不確定要素が含まれており、実際の業績とは大きく異なる結果となる場合があります。

株式の状況（平成25年9月30日現在）

発行可能株式総数	6,000,000,000株
発行済株式総数	2,999,377,399株
株主数	121,220名 （前期末比4,376名減少）

所有者別状況



会社概要（平成25年9月30日現在）

商号	マツダ株式会社
設立	大正9年1月30日
資本金	258,957,096,762円
従業員数	20,547名
本社	〒730-8670 広島県安芸郡府中町新地3番1号 電話(082) 282-1111
ホームページURL	http://www.mazda.co.jp/

取締役および監査役（平成25年9月30日現在）

代表取締役会長	山内　孝	**取締役**	坂井　一郎
代表取締役副会長	金井　誠太	**取締役**	牟田　泰三
代表取締役	小飼　雅道	**監査役（常勤）**	見立　和幸
代表取締役	丸本　明	**監査役（常勤）**	栃尾　信義
取締役	原田　裕司	**監査役**	赤岡　功
取締役	中峯　勇二	**監査役**	平澤　正英
取締役	稲本　信秀	**監査役**	堀田　隆夫
取締役	黒沢　幸治		

IRサイト「株主・投資家情報」をご活用ください。

社長メッセージや決算情報、プレゼンテーション資料など、さまざまな情報を掲載しています。

http://www.mazda.co.jp/corporate/investors/

大株主

株主名	持株数（千株）	持株比率（%）
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社（信託口）	178,077	6.0
日本マスタートラスト信託銀行株式会社（信託口）	160,132	5.4
株式会社三井住友銀行	64,287	2.2
FORD MOTOR COMPANY ACCOUNT FOR MAZDA SECURITIES	62,313	2.1
住友商事株式会社	53,409	1.8
三井住友海上火災保険株式会社	40,683	1.4
STATE STREET BANK AND TRUST COMPANY 505225	39,445	1.3
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社（信託口9）	36,679	1.2
SAJAP	35,525	1.2
THE CHASE MANHATTAN BANK, N. A. LONDON SECS LENDING OMNIBUS ACCOUNT	35,103	1.2

（注）持株比率は、自己株式10,193,294株を控除して計算しています。

株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月
基準日	定時株主総会　毎年3月31日 期末配当　毎年3月31日 中間配当　毎年9月30日
公告方法	電子公告 http://www.mazda.co.jp/
株主名簿管理人	三井住友信託銀行株式会社
同事務取扱場所	大阪市中央区北浜四丁目5番33号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
・郵便物送付先	〒168-0063　東京都杉並区和泉二丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
・電話お問合せ先	0120-782-031
・ホームページURL	http://www.smtb.jp/personal/agency/index.html
単元株式数	1,000株
証券コード	7261

VEGETABLE OIL INK

本誌は植物油インキを使用しています。